

市長から 市民のみなさんへ 50



小野田市長 白井 博文

多くの市民の方の善意で 中学生海外派遣事業が実施できます

平成 19 年度「崖っぷち予算」において、財政難を理由に多くの事業の中止、休止、縮小を行いました。中でもそのあおりを受けることになったものとして、いわゆる“3点セット”「敬老祝金の休止」「図書購入費の削減」「中学生海外派遣事業の隔年実施」は新聞等で報道され、すでに多くの方がご存知のことと思います。どの事業もやむを得ず予算削減を行ったわけですが、そのような市の決断に“待った”をかける形で、小野田青年会議所の呼びかけによる募金活動が行われ、その趣旨に賛同いただいた多くの市民の方の善意により、今年の中学生海外派遣事業が実施できるようになりました。浄財をお寄せいただいたみなさんに、市長としてこの場を借りてありがとうございますと感謝の気持ちをのべさせていただきます。

この派遣事業は旧小野田市から続けてきたもので、姉妹都市レッドクリフ市に派遣された生徒は日本では味わえない異文化の中に身を置き、国際感覚を身に付ける貴重な体験になっています。そのような大切な事業の隔年実施を決断したときは、まさに断腸の思いでした。現在、策定している行政改革大綱・アクションプランでは、無駄と思われる事業の見直し、効率化を検討していると



▲中学生海外派遣事業 現地での一コマ

対話の日

※いずれの会場も19:00から



6月14日(木) 永安台公会堂
6月28日(木) 緑が丘自治会館
7月12日(木) 大持集落センター

ころですが、この事業はそれらとは違って、お金のやりくりさえつけば実施したいと考えていた事業です。市民のみなさんに手をさしのべていただき、例年どおり中学生を派遣できるようになったことについて、市役所と市民との協働が、言ってみれば私にとって想定外の形ですが、実現したことをうれしく思います。一方で、この事業にける市民のみなさんの熱意を肌で感じ、このような事態を再度まねかないように、財政再建を確実に推進していかなければと決意しているところです。

なお5ページにありますように派遣学生の選考、随行者の派遣を支援していただく国際交流協会のご尽力に対しても改めて感謝申し上げます。

敬老祝事業の取組みもスタートしました

敬老祝金の休止に関する条例については、6月議会で引き続き審議されることになりました。一方で、13ページにありますように今年から新たな敬老祝事業の取組みをスタートさせることにしました。85歳、95歳、100歳以上といった従来の敬老祝金の支給対象の方が9月の一定期間、市内の商店で割引などの特典を得られるというものです。市からの申し出に商工会議所が快諾していただいたことにより実施が実現しました。カードを提示すれば特典をうけることができるわけですが、そのカードをお渡しするときには、園児の描いた絵などを添えることができればと計画しているところです。まさに市内の全世代をあげて、敬老の気持ちを表す素晴らしい事業といえるのではないのでしょうか。今年は1年目ということで試行錯誤の取組みとなりますが、今後は更に対象を拡げることができたらと期待しているところです。